



看取りケアの取り組みについて

～いのちの最期に寄り添う看取り介護とは～

1

旭水荘公開講座
2016年6月29日

看護主任 家本 順子

みと 看取り・・・とは

治療により回復する見込みがなく、死に向かう最後の時期。

身体的・心理的・社会的苦痛を出来る限り緩和し、安らかな死を迎えることが出来るように援助し、看病すること。

福祉における看取り

以前、看取りは医療の領域であると考えられていた。福祉は日常生活の支援が中心であり、自宅で最期を迎えるのが一般的で、看取りは家族の役割とされていた。昨今は高齢社会となり、終末期の介護の必要性が高まり、看取りに関わるのは医療だけではないという認識が高まってきた。

福祉における看取りは社会の一員として共に生き、日常の関わりの中で最期を迎える支援を行うこととされている。

特別養護老人ホームでの看取り

特別養護老人ホームは常に介護を必要とする高齢者が生活を送る場であるが、重度化が進み、いつどういう医療が必要となるか分からない。

生活の場である特別養護老人ホームでの看取りは、職員や家族が関わり、見守りながら、その人らしさを尊重した日々の生活を継続し、本人・家族が希望しない限り、必要以上の医療的な介入（延命）をせず、安らかな最期を支援すること。

特別養護老人ホームでの看取りの条件①

指針やマニュアルが整備され、施設の看取りに対する考え方が統一していること。



特別養護老人ホームでの看取りの条件②

常勤の看護職員の人数を満たしていること。
また24時間連絡体制が確保できていること。



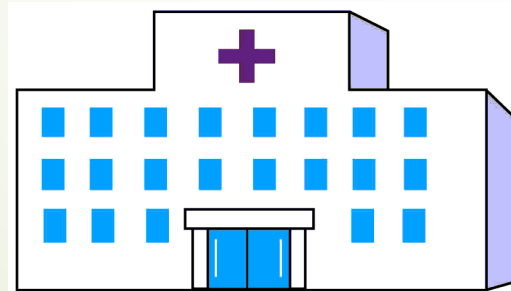
特別養護老人ホームでの看取りの条件③

入所の際にご利用者様・ご家族へ看取りに関する説明を行うこと。



特別養護老人ホームでの看取りの条件④

医療機関との協力体制が整備され、嘱託医師が看取り介護について理解があること。



特別養護老人ホームでの看取りの条件⑤

看取りの為の個室を確保していること。
ご家族にもしっかりと看取りに参加していただくこと。



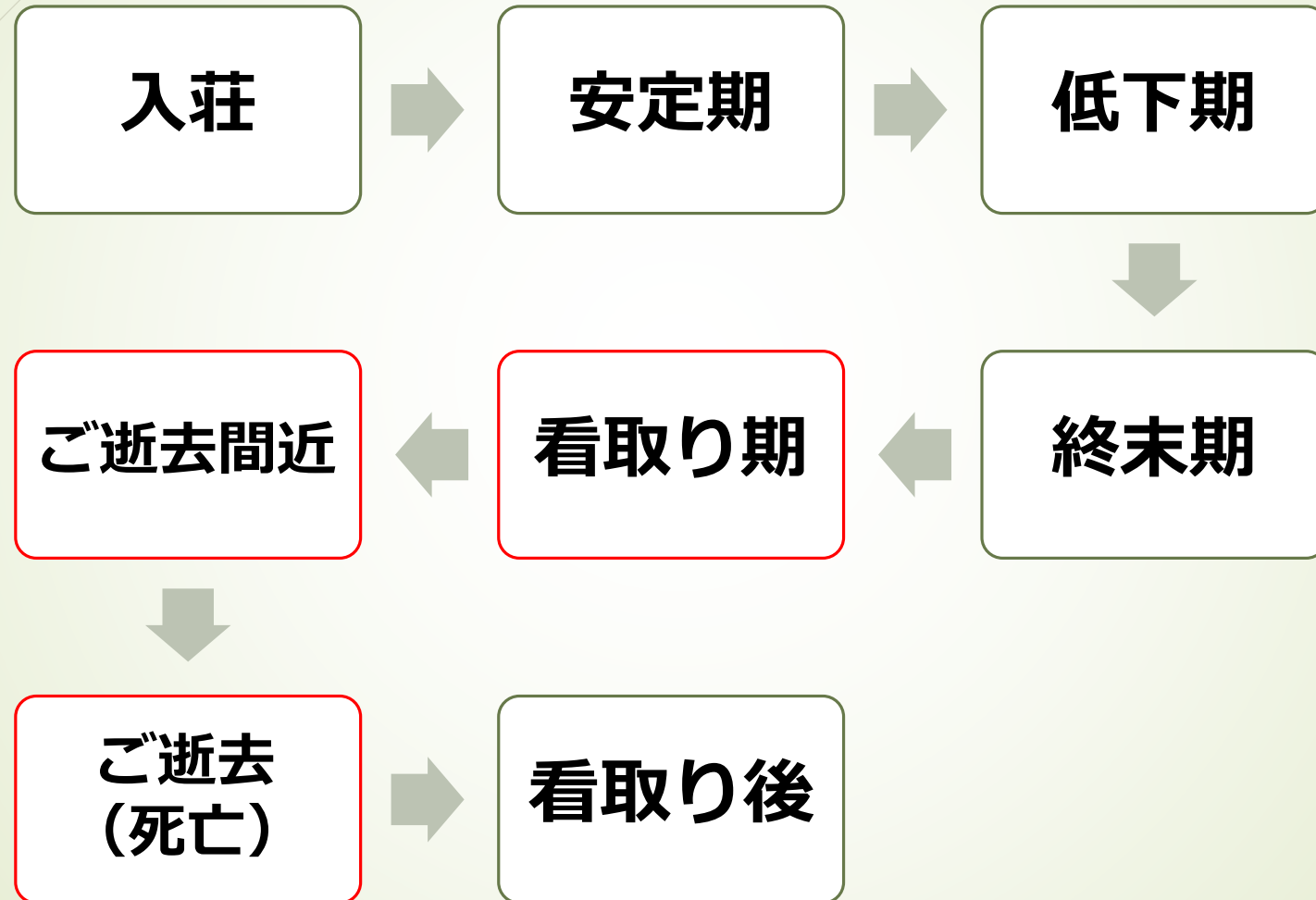
特別養護老人ホームでの看取りの条件⑥

看取りの為の職員研修を行っていること。



いつ看取りを判断するの？

入所から看取りまで



看取りを希望されるご家族の声

- 以前、身内の胃瘦や延命を選択し、後悔した
- 苦痛を伴う治療でしんどい思いをさせたくない
- 病室で一人寂しく死なせたくない
- 住み慣れた場所で馴染みの顔ぶれに囲まれて最後まで自分らしく過ごしてほしい

看取りを希望せず、最後まで医療を望まれるご家族の声

- 1日でも長く生きてほしい
- 延命の可能性があるのでならしてあげたい
- 何もしてあげないことに罪悪感を感じる
- 病院・療養型への入院・転院

旭水荘での看取り介護実績

	退所者	看取り介護
平成23年	19名	3名
平成24年	20名	7名
平成25年	20名	9名
平成26年	21名	9名
平成27年	30名	16名

看取りの実施と症例

Aさん

81歳（女性）

平成24年2月8日入所

病名

アルツハイマー型認知症
高血圧症、慢性腎不全

看取りの実施と症例

経過

平成26年・27年・28年とケイレン発作をおこす発作を起こすたびに食事の自力摂取困難・嚥下力低下 発語もほとんど見られなくなる。

28年1月末 胃瘻造設目的にて入院も出血傾向強く、造設出来ず。

28年3月19日 経鼻カテーテル挿入にて退院される。

3月27日 酸素濃度低下症状あり。呼吸不全にてカテーテル抜去し、入院。

4月 病院へお見舞いに行き、声を掛けると声を出して笑い、痰も少ない。口からの経口摂取ができるかもしれない事を提案し、ご家族・医師と何度も相談する。

胃瘻（いろう）



経鼻カテーテル



看取りの実施と症例

経過

- 4月5日** 家族の了承を得、退院される。経口摂取開始。
- 4月19日** 右下肢血栓症発症(血管閉塞)。
- 4月28日** 経口摂取困難。家族へ今後についての意向を確認する。
- 5月2日** 医師より看取りについての説明後、同意をいただく。
- 5月7日** ご逝去

母の感謝の顔・感謝の表情

8年前、突然の病に倒れた母は意識障害、失語症となってしまいました。孤独死が取りざたされる昨今、それを救って下さったのは、当時お世話になっていたヘルパーさんでした。そして命をつなぐことができました。その後、施設のお世話を受けましたが、先日92歳の生涯にピリオドを打ちました。その時の母の顔は不思議なほど安らかでした。私にとって何よりの救いでしたが、それ以上に私に代わって今までお世話して下さいました施設の皆様に、ただただ感謝の気持ちでいっぱいでした。

遺影の母との毎日の会話の中で、フツと私の頭の中をある思いがよぎりました。母のあの安らかさは言葉の代わりに「皆さん、ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたんだと。

そしてそれは言葉をなくした母にできた、たった一つの精いっぱい「恩返し」だったんだと・・・私の勝手な思い込みかもしれませんが、私はそう信じてやみません。皆様に届きますよう、願っています。

利用者のご家族の新聞の投稿より

Song Time

～いのちのうた～

作詞 竹内 まりや
作曲 村松 崇継
歌 清水 勇貴 (介護職員)

20



生きていくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ
この星の片隅で めぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも たいせつな宝もの
泣きたい日もある 絶望に嘆く日も
そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影
二人で歌えば 懐かしくよみがえる
ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり
本当にだいじなものは 隠れて見えない
ささやかすぎる日々の中に かけがえのない喜び
がある
いつかは誰でも この星にさよならを
する時が来るけれど 命は継がれていく
生まれてきたこと 育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと
そのすべてにありがとう
この命にありがとう

最期の選択肢

- 延命治療を受けて一日でも長生きしたい
- 苦しみ・苦痛から逃れて最期を迎えたい
- 自分らしい最期を迎えたい
- 安らかな自然死を望む

死について (死生観)

- いい関係には、いい別れがある
- 死をタブー視せず、もっと明るく話題にすること
- 「死」を考えることは「生」を考えることでもある
- どこかで決心し、別れの準備をすることは必要だ
- 別れは愛情を再認識させ、命の尊厳を実感する機会でもある
- 死について「間違っている」「正しい」と言うことは決してない。どのような死に方をするのか、したいかを考えることは人間としての自然の営みである
- **「リビングウィル」** 自分の最期はどうしたいのかを書面に残そう

看取りと向き合うこと



ご静聴ありがとうございました

